

生徒会の福島支援 政府が活動を表彰

上田高

震災翌年に始め 代々つなぐ



内閣府で開いた懇親会で、選考委員らに活動について話す
上田高校の落合さん＝都内

上田高校生徒会が26日、政府が子どもや若者の社会貢献活動をたたえる「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」の本年度表彰を受けた。2011年の東日本大震災による原発事故の影響で風評被害に苦しむ福島県の農家への支援活動が評価された。生徒会は「来年以降の活動のモチベーションになる」と喜び、思いを新たにしている。

生徒会などによると、震災

の翌年から同高文化祭「松尾祭」の企画の一つとして福島県産農産物の販売を始め、引き継いできた。生徒が現地を訪ねたり、野菜や果物の放射線量を計測して安全性を確かめたりした。

内閣府によると、選考では、生徒の自発性や自主性だけでなく、「問題意識を持った先輩の意志と活動の意

味を引き継ぎながら、被災地と上田地域をつなぐ活動を継続している」と評価された。

この日は内閣府で表彰式が

あり、前生徒会長の3年、落合光平さん(18)Ⅱ上田市新田Ⅱが松山政司・内閣府特命担当大臣から表彰状を受け取った。落合さんは「代々の生徒会が努力した結果です。上田の住民からも期待されるようになっていて、後輩にしっかりと引き継いでいきたい」と話していた。

本年度の「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」は総理大臣表彰が1件、特命担当大臣表彰が上田高生徒会を含む9件だった。